

1. DNA診断技術への現状

塩野義製薬(株)中央研究所部長 研究員

寺岡 宏氏

2. 放射線で滅菌した実験動物用飼料の安全性

田辺製薬(株)マルゴ・リサーチサービス
大阪技術部第二課長

武下 政一氏

3. ダイヤモンドと放射線

ジュエリーラボウメダ宝石アドバイザー

梅田 巖氏

4. 放射線による農用生物の改質

宇都宮大学農学部教授

村松 晋氏

5. いろいろの原因で変化する環境放射線

日本分析センター技術参与

市川 龍資氏

大阪の歴史散歩

せい み きょく
舎 密 局

大阪城大手門前を通る上本町筋の馬場町交差点を西に折れると警察会館正面脇に、道路の一部をはみ出した大きな楠木があり、この木の根元に「史跡 舎密局址」と記された石碑が建っています。舎密とは、蘭語の *Chemie* の音訳で“化学”を意味するもので、江戸幕府時代の大阪城西定番屋敷（それ以前は、加藤清正の下屋敷とも言われています。）に明治維新政府が明治2年5月理化学の学校として開設した大阪で初めての公立の教育機関がこの舎密局でした。

その後、大阪英語学校、大阪専門学校、大阪中学校と校名が変遷し、明治19年第三高等中学校と改称、明治22年京都市吉田に移り第三高等学校を経て現在の京都大学（教養学部）発祥の地ともいべき地があります。

この楠木は、舎密局から第三高等中学校にかけての生徒の憩いの場として当時を忍ぶものとされています。

ちなみに、第三高等中学校時代この地の学び舎で机を並べて勉学にいそしんだ人の中に、浜口雄幸、幣原喜十郎の戦前と戦後の揺乱期の両宰相の名があり、親しい友人として、この木の下でともに語られたのではないのでしょうか。

